

## 東京 IPO 特別コラム

---

2017年2月27日 Vol.70

### 都市油田 VS 都市鉱山

トランプ相場の潮流に乗ってNYダウやNASDAQ指数が上昇の一途ですが、これに負けず劣らずこのところマザーズやJASDAQなどの中小型株指数が堅調です。この結果、直近のIPO銘柄も人気を集めています。その中にはこれまでにない発想で新たなビジネスに挑戦しようとする企業も現れており、多くの投資家の注目を集めつつあります。本コラム配信の70回目となる今回はそうしたユニークなアイデアや技術を引っ提げて株式市場に登場した2社をご紹介します。

日本は資源に乏しい国だから・・・と言われてきましたが、実はいつの間にか、たくさん資源を国内に蓄積してきました。例えば石油を原料として製造される樹脂はその典型です。家庭内の樹脂はごみとして焼却するか回収して別のものとして再利用するかまたは液体にして燃料として再利用するなどが考えられます。PETボトルから衣類やプラスチック製品を製造するといったことが日常的になってきたのはご存知の通りです。また、携帯電話やPCなどの電子部品に使われる金などの貴金属も電子機器の普及とともに、使い終わっても家庭内に放置することが多いために国内に蓄積されている状態と言えます。

奇しくも昨年7月にはリファインバース(6531)という都市油田をビジネス化した企業がIPOを果たしたのに続き、12月には都市鉱山をテーマにしたリネットジャパングループ(3556)がIPO。いずれも上場後は高い評価を集め、株価も大きく値上がりしています。リファインバースはオフィス等のタイルカーペットのリサイクル事業を主たる業務として直近は火力発電所等で発生する石炭灰及び建設系廃棄物を有効利用した製品を開発し事業化すると発表。株価は上場後の安値1782円から5倍以上にまで上昇。時価総額も120億円を超えてきました。

一方のリネットジャパングループはユーザーからインターネットを通じて買取の申し込みを受け付け、宅配便で集荷し査定額を指定口座に支払う宅配買取と自社サイトでの中古本やDVD、ブランド品の販売を行うネットオフ事業が主力ながら今後は佐川急便と組んだ携帯電話や小型家電品や電子機器等の有償宅配回収サービスの成長が見込まれています。同事業は国の認可が必要で、この面での参入障壁は高いと見られますし回収や処理自体は専門業者が行い、同社はネット上の仕組みを構築してユーザーに活用してもらうプラットフォーム型のビジネスなので資本効率が良く、今後の収益拡大の源泉になると期待されます。家庭に眠る膨大な電子機器には金や希少金属が含まれ、まさに同社が都市鉱山会社となる日も近いと考えられます。そうしたことへの評価と5分割実施、同時に発表されたユニークで実利につながる株主優待制度の実施が株価を刺激したようです。同社の公開価格は1830円ですが、初値は3530円。その後の安値2705円を経て7350円まで2倍以上に上昇。流動性の向上のため先週5分割を実施し株価のレンジは1100円台から1300円台へと移行していますが、同時に発表し

## 東京 IPO 特別コラム

---

た株主優待制度では最低100株の1単元株主ユーザーが買取査定してもらった際にその価格に1万円上乗せして提供するという仕組みを発表。実質配当利回りが20%以上になる可能性もあって人気を集めています。

都市油田と都市鉱山を求めての新たな挑戦はまだ始まったばかり。経常利益もほぼ同水準でもあり、今後の両社の発展とともに株価の行方が気になるところです。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)